

加州日本語学園協会研究会及びその他の活動記録

1992～2008

1992年 10月31日	加州日本語学園協会南加支部 秋季研究会 会場: ロング ビーチ日本語学校	午前の部: 講演 - プサワット瑛子先生 CSULB 演題: 「日本語を外国語として学ぶ生徒への指導法」 午後の部: 講演: 宇都 裕 文京女子大学教授 演題: 「生きた日本語」について 註: 宇都先生は、「やさしい日本語」教科書シリーズの 監修者です。
1993年 10月30日	加州日本語学園協会南加支部 秋季研究会 会場: ガーデナ仏教会附属日本語学園	午前の部: 授業参観 午後の部: 分科会
1995年 10月28日	加州日本語学園協会南加支部 秋季研究会 会場: 協同システムオレンジコースト学園	授業参観
1996年 2月24日	加州日本語学園協会南加支部総会 会場: 協同システムオレンジコースト学園	春季南加支部総会には研修会は行われぬ。秋季に行う研究授業担当校の確認があった。
1996年 8月24日	加州日本語学園協会第19回本部総会 会場: ハリウッド日本語学園	井川齋氏が協会会長に選出される。 常設委員会設置についての話し合いがもたれた。
1996年 8月25日	「やさしいにほんご」教科書シリーズ完了記念 行事 - 教科書出版祝賀会 会場: マリオットホテル (トーレンス)	パネルディスカッション 「外国語としての日本語、継承語としての日本語、二つの日本語教授法における共通課題と解決法」
1996年 10月25日	加州日本語学園協会南加支部 秋季研究会 会場: 協同パサデナ学園	研究授業 授業参観 5人の先生の授業を参観する 分科会 クラス別に討議 入門初級から上級までの話 - 井川 齋
1996年 11月16日	勉強会 1回目 会場: ガーデナ仏教会附属日本語学校	課題 1. 有効的な「やさしいにほんご」教科書の使い方

		2. 有効的な「コミュニケーション教授法」 註:個人の自由意思での参加
1997年 2月1日	勉強会 2回目 会場: ガーデナ仏教会附属日本語学校	課題 1. 第1回目の勉強会の結果のレポートを読んでおく事。 2. 「やさしいにほんご」中級編 註:個人の自由意思での参加

1997年 2月22日	加州日本語学園協会 南加支部総会 会場: ガーデナ仏教会附属日本語学校	春季南加支部総会には研修会は行われぬ。秋季に行う研究授業担当校の確認があった。 この秋季研修会から秋季研究会と支部総会を同日にする。
1997年 11月1日	加州日本語学園協会南加支部総会及び 秋季研究授業 場所: サウスイースト学園	午前の部 総会 来賓の挨拶: 国際交流基金ロスアンゼルス事務所長の辻本勇夫氏がアメリカでの日本語教育について話された。 午後の部: 基調講演: 當作靖彦 演題: 「日本語教授におけるコミュニケーションアプローチについて」 <ul style="list-style-type: none"> • その基本的な考え方 • 具体的な各種教授方法の概略的紹介 • 質疑応答 分科会 ワークショップ- 教案の立て方と教授法における具体的なアプローチについて 1. CBI (Competency Based Instruction = 能力ベース適正指導) リーダー: トレーシー・野町先生 (Venice High School 日本語教諭) 2. T.P.R. (Total Physical Response = 全身反応教授法)

		<p>の導入の仕方について リーダー:まさこ・ホワイト先生 (Brea-Olinda High School 日本語教諭)</p> <p>3. 日本語のバックグラウンドが希薄な学習者を対象にした場合の有効的な日本語教授法について リーダー:シャリ・カウリッグ先生 (Los Alamitos High School スペイン語教諭) きみえ・まつもと先生(Los Alamitos High School 日本語教諭)</p> <p>4. 「読み書き」教授を焦点とした授業の展開について リーダー:えりこ・うえずぎ先生 (Scripps Ranch High School/San Diego 日本語教諭) りえ・つばい先生 (San Diequito Academy/San Diego 日本語教諭)</p>
<p>1998 年 8 月 29 日</p>	<p>第 20 回加州日本語学園協会総会及び研究会 会場:ハリウッド日本語学園</p>	<p>研究会の部</p> <p>第 1 部 特別講演:ブサワット瑛子教授(CSULB 日本語科主任) 演題:「有効的な日本語カリキュラム構築について」</p> <p>第 2 部 ワークショップ</p> <p>「英語が主言語である学習者を対象とする小学校レベルにおける日本語教育」 指導者:オオシマ先生、ハム先生、ワイアンコ先生 コンコルデア小学校、サンファン学校区</p> <p>「英語が主要言語である学習者を対象とする高校レベルにおける日本語教育」 指導者:松本先生、カウリッジ先生 (ロスアラミトス高校、ロスアラミトス学校区)</p> <p>「英語が主要言語である日本語学習者を対象とする場合のイノベティブなアイデア」 指導者:伊藤京子先生(サウスベイ成人学校/UCLA)</p> <p>註:この日のハンドアウトの中に 5-Step Lesson Planning が含まれている。</p>

<p>1998 年 8 月 30 日</p>	<p>第 20 回加州日本語学園協会総会及び研究会 会場:ハリウッド日本語学園</p>	<p>総会の部 来賓の挨拶:国際交流基金ロスアンゼルス事務所長 辻本勇夫氏</p>
<p>1999 年 5 月 27 日</p>	<p>全米継承日本語教育会議(第 1 日目) 場所:日米文化会館及び日米劇場(ロスアンゼルス)</p>	<p>第 1 部 - 「継承日本語教育の位置づけ」について</p> <p>意見発表 司会:井川会長 発表者(その 1)Dr. Richard Brecht (The National Foreign language Center) 「アメリカにおける継承外国語教育の現状と特殊的语言教育の実態 - 日本語のケースについて」</p> <p>発表者(その 2)Dr. Hiroko Kataoka (CSULB/Japan Foundation) 「アメリカにおける日本語教育の現状 その全体像について」</p> <p>発表者(その 3)Professor Kazuko Nakajima 9 (University of Toronto) 「北米における継承日本語教育分野の定義づけについて」</p> <p>発表者(その 4)Mr. Norman T. Masuda (Palo Alto High School) 「公立高校日本語教育分野の視野から見る継承日本語教育分野における問題点」</p> <p>発表者(その 5)Ms. Karin Higa (JANAM-Director of Curatorial and Collections) 「日系アメリカ人社会における日本語の位置づけについて - 全米日系博物館の視点から」</p> <p>発表者(その 6)Gary Maeda (National Vice President -JACL) 「日系アメリカ人社会における日本語の位置づけについて - 日系市民協会の視点から」</p> <p>発表者(その 7)Mr. Keizo Norimoto(C.E.O. Hokubei Mainichi Shimbun)</p>

		<p>「日系アメリカ人社会における日本語の位置づけについて - 邦字新聞社の視点から」</p> <p>第2部 - パネルディスカッション 司会: 井川 齋 Ph.D.</p> <p>「日本語教育の現状 現場における見解」</p> <p>パネリスト: 補習校代表者 - Mr. Hisashi Kumano (General Manager, Ikuei Seminar-Torrance, CA), Hitomi Oketanni on the Midwest Region Status (Eastern Michigan University), Dr. Toshiko Kishimoto (Principal-Greenville Area, SC, Saturday Japanese School)</p> <p>継承語日本語学校代表者 - The Rev. Jiho Machida (Advisor-Hawaii Nihongo Kyoiku-kai), Mr. Noboru Higuchi, (Kinmon Gakuen-San Francisco, CA), Mr. Yoshinori Nakajima (Principal, Kyodo System - Los Angeles, CA)</p> <p>第3部 - パネルディスカッション</p> <p>司会: Mr. Warren Furutani (LACC District Board)</p> <p>「日系社会における日本語の位置づけ 今日及び将来における課題」</p> <p>パネリスト: Ms. Janice Also Edesa, a.k.a. Azuma Sumako (Classical Japanese Dancer), Ms. Naomi Hirahara (Writer/Journalist), Mr. Robert Hori (Program Specialist-JACCC), Professor Yuji Ichioka (UCLA-History), The Rev. Mas Kodani (Senshin Buddhist Church), Mr. Rick Mori (CB Richard Ellis)</p>
<p>1999年 5月28日</p>	<p>全米継承日本語教育会議(第2日目) 場所: 日米文化会館及び日米劇場 (ロサンゼルス)</p>	<p>第4部 - 「全米継承日本語教育協会」? 設立について 議長: 中嶋良典(加州日本語学園協会南加支部 支部長)</p> <p>討議焦点: 協会設立目的、組織形態、予定行事、執行部メ</p>

		メンバーの選出 責任内容及び権限の明確化
2000年 8月27日	加州日本語学園協会第21回総会 会場:協同システム羅府中央学園	研究会1:井川会長による「やさしいにほんご」シリーズ全体の解説並びに説明 研究会2:ビデオによる授業のケーススタディ LB, HG, SE, Kyodo Orange Coast 研究会3:「やさしいにほんご」の授業を見た後、クラス別意見交換。「やさしいにほんご」を使っていない先生方は別のグループで話し合った。
2001年 2月17日	2001年度加州日本語学園協会南加支部総会並びに研究会 会場:サンフェルナンド平原日本語学園	午前:総会 午後の部:研究会 基調講演:加藤和光博士 ロサンゼルス州立大学及び名古屋外国語大学名誉教授 演題:「第二次大戦後のアメリカにおける日本語教育の変遷について」 分科会 その1:「これからの日本語学園は何を目指すべきか。」 討議リーダー:井川 齋(CAJLS 会長) その2:「高校生・成人の入門レベル学習者を対象にした場合の有効的な教え方」 討議リーダー:乾 田鶴子(LB 日本語学校主任) その3:「低年齢学習者を対象として第二或いは第三言語として日本語を教える場合の問題点とその解決策」 討議リーダー: グラス昌子(UCLA)

		<p>その4:「中高学年向けの日本語指導のあり方を 探る。」 討議リーダー: 田村まり(協同オレンジコースト学園 主任)</p>
<p>2002年 2月16日</p>	<p>2002年度加州日本語学園協会 南加支部総会/研究会</p> <p>会場: ロングビーチ日本語学校</p>	<p>第1部: 総会</p> <p>第2部: 講演 追基調講演: 加賀崎雅子 ブリッジUSA 編集長 演題: 「知っておきたい! 技術革命最前線」 アメリカの先端技術はいったいどこまで できているか?</p> <p>第3部: 研究分科会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 継承語としての日本語学習指導・高学年 2. 継承語として日本語学習を始める、中・高学年の指導 3. 外国語として日本語学習、低学年の指導 4. クレジットテストについて 5. 各学園経営にかんする問題
<p>2002年 8月25日</p>	<p>加州日本語学園協会第22回総会 並びに研究会</p>	<p>第1部: 総会</p> <p>第2部: 研究会 講師 堀場アリス先生他、カルバーシティ エルマリノ小学校日本語科スタッフ一同</p> <ul style="list-style-type: none"> • 家庭において日本語不在の生徒を対象とした場合の日本語教授法及び宿題の出し方について • 家庭において日本語不在の生徒への宿題の出し方について

		<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの作成基準について 生徒を飽きさせない教授法及び生徒に日本語への興味をもたせる教授法について
2003年 2月15日	<p>2003年加州日本語学園協会 南加支部総会並びに研究会</p> <p>会場:ハリウッド日本語学園</p>	<p>第1部:総会</p> <p>第2部:研究会・分科会 出された研究課題を現場での経験を通して グループごとに話し合った。</p> <p>グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> やさしい日本語を基準とした入門、初級、中級、上級のクラス 中学・高校以上の生徒を対象とした、初級、中級、上級、最上級のクラス 園長・父母会のグループ <p>先生方に出された方研究課題:</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語を話すようにさせる工夫 宿題の出し方 学習意欲のない生徒に意欲を起こさせる工夫 低学年から高学年への移行時の指導の工夫 学習したことを持続させる工夫 複式クラスでの指導法 使いやすい副教材の紹介 年齢に応じた副読本の紹介 日本語最上急レベルの生徒への指導法 指導法成功例・失敗例 クラス経営・生活指導関連事項 継承語としての日本語について 日本語学校の必要性 その他
2003年 10月24日	<p>全米日本語学校会議</p> <p>主催:Alliance of the Associations of Teachers of Japanese</p> <p>会場:ミヤコ・イン</p>	<p>CAJLS から Sachiko Tu (Hollywood Japanese Language School)が参加下記のタイトルで 発表</p> <p>「CAJLS 日本語クレジットテストにみる日本語学習者のプロフィール」</p>
2004年	2004年加州日本語学園協会南加支部	第1部:総会

2月14日	<p>総会並びに研究会</p> <p>会場: ガーデナ仏教会附属学園日本語学園</p>	<p>第2部: 講演 山川マイク夫妻 (El Marino Language School, Culver City) テーマ: 生徒の日本語の会話能力を伸ばす 日本語レッスンのデザインと</p> <p>第3部: 研究会・分科会 レベル13のグループに分かれて研究発表</p>
2004年 8月1日	<p>First Annual Japanese Language Education Symposium Overview</p> <p>Location: New Otani Hotel and Garden, Los Angeles</p>	<p>Theme: "No Teacher Left Behind"</p> <p>CAJLS から井川協会長がスピーカーとして参加</p>
2004年 8月29日	<p>加州日本語学園協会第23回総会並びに研究会</p> <p>会場: ハリウッド日本語学園</p>	<p>第1部: 総会</p> <p>第2部: 講演 講演: 當作靖彦教授(UCSD) 演題: 「日本語学校生徒の学習成果とその評価についてーアーティキュレーションの観点からの考察」</p> <p>第3部: パネル討議 「日系社会は日本語学校に何を期待しているか？」 パネリスト: 県人会協議会代表、日商代表、Nikkei Federation 代表</p>
2005年 2月19日		<p>第1部: 総会</p> <p>第2部: 研究会</p> <p>1. 外国語の教え方 (TPRを中心) ホワイト昌子先生 プレアオリンダ教師)</p> <p>2. 年少者に対するコミュニケーションアプローチ バーグ陽子 サウスイースト学園</p> <p>3-5 やさしい日本語の教科書を使用</p> <p>3. 初級 山川マイク先生(エルマリノ小学校日本語教師)</p> <p>4. 中級 松本きみえ ロスアラミトス高校・サウスイ</p>

		<p>ースト学園教師</p> <p>5. 上級 仁井岡民枝 サウスイースト学園教師</p> <p>6. 日本語をバックグラウンドとした高校生レベル 野中ひとみ サウスイースト学園教師</p> <p>7. 父母会(園長・校長先生は、1 - 6 のクラスに入っていた。)</p>
2006 年 2 月 18 日	<p>加州日本語学園協会南加支部 2006 年総会並びに研究会</p> <p>会場: ESGVJCC</p>	<p>基調講演: 片岡裕子 (CSULB, 日本語科教授)</p> <p>演題: 「AP Japanese Language and Culture to Preparing Students for the Examination」</p> <p>分科会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚部及び K3: 言語と躰の相互関係 幼児の言語教育 2. 入門: 年年少者への会話指導、会話を促す授業、日本語を話しやすくする授業 3. 1 年 2 年: 有効的な教材作成、成功例等を各学園から持参。事前に各学園に知らせ、作成品等を持参 4. 3 年 - 4 年: 効果的な宿題の出し方 5. 5 年 - 6 年: TPR 方式 (全身反応教授法) による授業について 6. 7 年 - 8 年: 教科書、副読本の活用、読解力の指導 7. 9 年以上: 高校生への会話指導 8. 成人クラス: クラスの紹介と教授内容、各レベルのゴールをどこにおくか、それぞれ違った目的の生徒に対する焦点の置き方 9. 学園責任者: 教職員の就労規則及び個人情報の管理
2007 年 2 月 17 日	<p>第 1 回加州日本語学園協会年次総会 兼 同 教師協議会年次総会及び研修会</p> <p>会場: ハリウッド日本語学園</p>	<p>第 1 部: 総会</p> <p>第 2 部: 研究会</p> <p>基調講演: 片岡裕子 (CSULB, 日本語科教授)</p> <p>演題: 「スタンダードに沿った日本語教育指導: 日本語学校の場合」</p> <p>第 3 部: 分科会</p> <p><u>レベル K-6:</u> テーマ: 「学校 - スタンダードを取り入れてみる。」</p> <p>グループ K-1: 私達の教室 - 何がありますか? グループリーダー: クワン 智子</p>

		<p>グループ 2-3: 私達の学校 - 学校探検 グループリーダー :馬込 久乃</p> <p>グループ 4-6: 学校生活紹介 グループリーダー:杜 幸子</p> <p><u>レベル 7-12:</u> テーマ: AP Japanese 「Writing の上達を図るにはどうしたらよいか。」 グループリーダー: 松本 きみえ</p> <p><u>レベル Adult Class:</u> テーマ: 「成人対象のクラスでの日本語教育を考える。」 グループリーダー: 乾 田鶴子</p>
2007 年 6 月 2 日	勉強会 会場:ハリウッド日本語学園	<p>講師: 松本きみえ (Los Alamitos High School 日本語教諭)</p> <p>テーマ: Lesson Planning</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Lesson Planning について総括的に説明 2. Lesson Plan の詳細の説明 3. 参加者が持ち寄った教材別にグループに分かれて lesson plan をたてる。
2008 年 2 月 16 日	第 2 回加州日本語学園協会年次総会及び同 教師協議会年次総会及び研修会 会場:ハリウッド日本語学園	<p>第 1 部: 総会</p> <p>第 2 部: 研究会</p> <p>基調講演 片岡裕子 (CSULB, 日本語科教授)</p> <p>"The Communication Goal of the National Standards and Assessment: Setting Objectives and Assessing Students' Communication Skills"</p> <p>「ナショナル・スタンダードに基づいたコミュニケーションの アセスメント: 目的の設定及び生徒のコミュニケーション力 の評価」</p> <p>第 3 部: 分科会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宿題のテストを分析し、グループでディスカッションする。 2. 代表グループによる報告。

		<p>3. モデルテスト/アセスメントの作成</p> <p>4. モデルテスト/アセスメントの発表</p> <p>分科会推進役講師:</p> <p>K - 4 ... 片岡裕子・知念聖美(UCI)</p> <p>5 - 8 ... ダグラス昌子(CSULB)</p> <p>9 - 12+ ... プサワット瑛子(CSULB)</p>
--	--	--